

平成29年度 施策評価表

課・グループ名	生涯学習課社会教育グループ
---------	---------------

作成年月日：平成30年9月28日

施策名	3-(5)-② ふるさとの記憶の保全		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(5) ふるさとの記憶を伝える芸術・文化活動の推進	②ふるさとの記憶の保全
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 南幌町の歴史を伝えるための貴重な資料等の適切な保存・継承に努めます。 ● 郷土芸能に対する理解を広く町民に求め、関係団体の協力を得ながら支援・継承に努めます。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 南幌町の歴史や文化を伝える資料等が生涯学習センター郷土資料室に数多く保存されています。 ● 南幌町では長い歴史のある郷土芸能（南幌太鼓、なんぼろ俵つみ唄、南幌音頭）が町民により継承されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料の種別や特性に応じて計画的に整備、その他必要な措置を講じて保存・継承する必要があります。 ● 郷土芸能を継承する担い手の減少や高齢化により継承が難しい状況にあることから、団体への支援が必要です。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況							
① 成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名		数値化	
	町内の3大郷土芸能（南幌太鼓、俵つみ唄、南幌音頭）を町民に継承するため、郷土芸能団体数を代替指標として設定。			成果指標（総合計画・施策評価）		可 能	
						不 可 能	
						未計測	
				代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定	
			郷土芸能団体数		○ 可 能 □ 不 可 能		
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H26	H27	H28	H29	H33	
目 標	団体				3	3	
実 績	団体	3	3	3	3		
達成率	%				100.0		
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
③ 施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				施策の達成度	郷土芸能団体と町が連携し、発表する場を増やし、伝承する機会の拡充を図った。今後においては、若い世代の会員を増やし、後継者を増やすことが課題である。
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)					
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)				A	
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)					

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類

【必要性】事務事業の必要性

【妥当性】町の関与の妥当性

(1) 自主事業(自主)

(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの

(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業

(2) 施設管理事業(施管)

(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの

(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業

(3) 経常的事務(経常)

(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの

(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業

(4) ハード事業(ハード)

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>
					目標	単位					H29実績	H30予算	
					実績								
1	ふるさとの記憶保全事業	(1)	生涯学習課	団体数	3	団体	・南幌町の歴史や生活文化を継承するための資料や生活用具などを収集・保管・展示。 ・南幌音頭、南幌太鼓、なんぼろ俵つみ唄の発表の場を提供。	I	I	1 現状のまま継続	82	289	高い
2													
3													
年度別施策全体の事業費合計(千円)													
											H29事業費	82	
											H30予算	289	

②H30に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の 妥当性 A	郷土の歴史や郷土芸能団体の活動を絶やさないために、町が団体と連携し、支援していくことが必要であるため、事業構成として妥当である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)		
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

4. 今後の方向性		※外部評価 (行政評価委員会)							
①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	【評価】 特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の 方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号					平成30年度以降 の予算の方向性	
			A						
			B	1					拡大
			C						○ 維持
		D					縮小		